

新年を迎え心新たに目標を掲げた人も多いのではないのでしょうか。ぜひ人権意識についても「電車で席をゆずる」「困っている人を見かけたら声をかける」など、身近でできそうな行動目標を持ってください。自ずと人権感覚が身につくようになりますはずです。世界では紛争や災害が絶えません。遠くのことでも人権意識を持って想いを馳せることが大切です。本年も、すべての差別の撤廃と人権が保障された社会の実現に向けて、大切な命の尊さや人への思いやりを伝えてまいります。どうぞよろしく願い申し上げます。



## 老若男女が集う “こども食堂” の勧め

こども食堂は、こどもを真ん中においた“共食コミュニティ”の拠点です。こども食堂は、地域住民有志によるボランティア活動として、今では全国で1万カ所を超えるほどになりました。山梨県庁(こども福祉課)のホームページで紹介されている県内の“こども食堂”だけでも49カ所(把握している団体は59団体)あるそうです。(※1)

約20年前にこの取組が始まった頃は、生活困窮している子育て世帯が主な対象でした。しかし、現在はそれに限らず、地域に暮らす赤ちゃんからお年寄りまで幅広く受け入れる処も増えています。こども食堂は、地域の子供達に来てもらいやすくするため、子どもには無料で食事を提供している団体が多いです。その場合、食材の調達や調理などにかかる費用をどう賄うかが課題となります。

お米については、農林水産省が政府備蓄米の無償提供を、こども食堂向けにも行うようになりました。今年4月以降は、こども食堂1団体あたり年間で60kgまで寄贈してもらえる制度がスタートします。(※2)また、地域の食料品店やフードバンク団体、農家などと提携して、消費(賞味)期限の近づいた食品や規格外の野菜などを無料で分けてもらう方法もあります。それから、大人が地域の子どものためにチケット(食券)を購入して、それを来場した子どもが使うやり方も広まりつつあります。

その県内の一例として、甲府市中央(デュオヒルズ・1F)で“暮らしの保健室・晴ればれ”が行っている「晴れ食堂」(ほぼ毎週金曜に開催)をご紹介します。(※3)

この食堂を利用する人は、壁に貼られた「はれきっぷ」と呼ばれるチケットを使えば、無料で食事が楽しめます。切符は、1枚100円。食堂を訪れた誰かが、これから訪れる人のために切符を購入し、メッセージを添えてプレゼントする仕組みです。来た子どもがそのチケットを利用した後、お礼のメッセージを書いて壁に貼ります。それを来場した大人が見ることで、新たな寄付やボランティア参加にもつながりやすくなると思います。

また、富士川町の中心市街地にある旧・有泉医院では、地域の人たちが集まる食堂の催し「わくわくキッチンふじかわ」が毎月第4土曜日に開かれ、地域の子供達と大人が楽しく交流しています。

(※4)「わくわくキッチン」は、町で暮らす住民の有志がボランティアで運営しています。最初はこども食堂として、生活に困っている一人親の家庭などに弁当を配る活動から始めたそうです。やがて、地域社会から孤立している人が多いことに気づき、大人も子どもも、だれでも集まることができるところを作ろうと思いついた、とのことでした。

このように、手づくりのおいしい食事を暖かな地域コミュニティ(家庭や学校・職場以外の“第3の居場所”)で分かち合える取組が、さらに広がることを期待しています。



(※1) 山梨県(子ども福祉課)「山梨県内のこども食堂一覧表」  
<https://www.pref.yamanashi.jp/documents/95919/kodomosyokudou20240702.pdf>



(※2) 農林水産省「学校給食用等政府備蓄米の交付について」  
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/bichikumai.html>



(※3) YBS NEWS NNN「“切符”がつける地域の輪 世代超え集う『晴れ食堂』」  
<https://news.ntv.co.jp/n/ybs/category/society/ys952a9b75bc1d465999239d38bc589dee>



(※4) 朝日新聞 DIGITAL「レトロな旧医院が憩いの場に 地域の人ら集う『わくわくキッチン』」  
<https://digital.asahi.com/articles/ASR9P771MR9DUZOB003.html?msockid=3ccc557052a36f4504ef413d53d06ee2>

### 活動報告

人権啓発パネル展 1月14日(火)～24日(金) 甲斐市役所にて、人権啓発パネル展を開催しました。

### 今後の予定

人権啓発パネル展 2月4日(火)～17日(月) 甲府市役所・甲府市南西公民館。

人権啓発講演会 2月3日(月) 甲府市役所庁舎、2月17日(月) 市民講演会、2月18日(火) 甲府地区広域行政事務組合消防本部。

<お詫びと訂正> 先月号のタイトルが「2024年11月号」になっておりました。正しくは「2024年12月号」でした。訂正とお詫びを申し上げます。

人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にてご覧いただけます。



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ  
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

会長：横山隆史  
理事長：横山美香

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室  
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. [yamanashi@yihrc.or.jp](mailto:yamanashi@yihrc.or.jp)

<協賛>  
山梨県  
甲府市  
甲斐市

人権移動教室に参加した子どもたちの感想文をご紹介します。

甲府市立玉諸小学校女子

人権教育講話を聞いて

今日は、人権について様子なお話やビデオを用意してくださり本当にありがとうございました。私は、「人権」という言葉は知っていたのですが、説明をすることは難しいと感じていました。ですが、お話を聞いて「人権とは「命」と「幸せ」を守るために一人一人が持つている権利だということが分かりました。「MSF」という団体が外国で活動して

いることを初めて知りました。「MSF」は困っている人、助けを必要としている人に宗教や人種で差別することなく、手をさしのべていてすごいなと感動しました。また、杉藤先生がけがをした際に周りの人が判断して思いやりのある行動をした人かいたことにも感動しました。私はこの思いやりをもっと世界中に広げたい。してほしいと思います。そのために自分にできることを考え、行動していきたい。改めて本当にありがとうございました。

甲府市立玉諸小学校女子

人権教室をうけて

この人権教室をうけて人にはたくさんの人権があった。幸せになるために自分が生きているということに気が付いた。そして、生きたいと幸せになることができないのだと思えた。私は最近生きていて楽しいことがよく分らない。少くも生きたいと思っていて一日一日を過ごしている。

楽しいと思える日もあれば辛い日もあるのは当然だけど辛いのが勝つてしまえば辛い日ばかり。でもまた辛い。でも人に親切にしたり、少しだけでも幸せな気持ちになれた時にうれしくなる。そして、映像に映っていた人々は不平等に殺されていた。また生きれる命があるのに他人に壊されていなくても、たいないと思えた。そんな人か世の中にはたくさん居ることを知って。いるから、私はとても幸せな生活をしていこうか。分かった。これからは今より幸せだと思えるように自分で努力していきたい。人を大切にしていきたい。